

1. これからはじめる防災対策・8  
～気象警報に気をつけよう～

---

●気象警報と学校

今年は10月に2度も勢力の強い台風が日本に上陸・接近し、臨時休校や自宅待機の通知などの対応をされた学校も多いことでしょう。

気象災害の発生が予測されるとき、学校を休校するかどうか判断の目安として使われているのが「気象警報」です。

●避難情報に頼り切らない

災害時には、自治体が発表する「避難勧告」「避難指示」という避難情報が出てから避難行動をとろうと考えている人も多いと思いますが、避難勧告・避難指示を待って避難するのでは間に合わない場合もあります。早めの自主的な避難が大切です。

平成28年の台風10号の被害を踏まえて、もうひとつの避難情報である「避難準備情報」は「避難準備・高齢者等避難開始」と名称変更されました。

これは文字通り、高齢者や身体の不自由な方は避難を開始してくださいという合図です。

●被害を防ぐ気象警報

避難では、避難するための「時間」を確保することが重要です。気象警報は、一般的に発生が予測される3～6時間前を目安に発表されるので、気象災害の際に、避難行動の目安となる情報と時間を教えてください。

ただ、過去に幾度もありますが、気象予測が難しい場合、気象警報が3～6時間前に発表できないこともありますので注意してください。

天気予報を知っておけば、事前に危険予測も可能です。普段から天気予報や気象警報を確認することを習慣づけるよう心がけましょう。